

昼夜間単位制高校（定時制課程）における社会科授業の実践（Ⅰ）

浅井 信雄

1. はじめに

戦後一貫して上昇してきた中学校卒業生の高等学校への進学率は、平成28年度には98.7%に達した¹⁾。それに対し、高等学校の中途退学者数は平成8年度から8年連続で10万人を超えていたが、その後は徐々に減り続け、平成21年度には56947人と5万人台となった。平成25年度は59742人と前年度より7961人増え、中途退学率も1.5%から1.7%と増加したものの、平成26年度は53391人（中途退学者の割合は1.52%）に、さらに平成27年度は49001人（同1.40%）と4万人台に減少している²⁾。

ところで、課程別の中途退学者数をみると、定時制課程における中途退学者数は平成26年度が11319人、中途退学率は11.1%、平成27年度が9770人、中途退学率は10.0%となっている。これは全日制普通科や全日制専門学科、あるいは全日制総合学科の中途退学者数、中途退学率よりも高く³⁾、全日制の高等学校等と比べその抱える課題も多様で複雑であることが指摘されている⁴⁾。全日制の国公私立合わせた生徒数が平成27年度で約321万6千人であるのに対して、定時制の生徒数は約9万3千人⁵⁾で全体の約2.8%にすぎないにもかかわらず、定時制高校には現在の高校教育がかかえる課題が端的に表れていることなどから、これまでさまざまな研究が進められてきた⁶⁾。

定時制高校は、1948年に教育の機会均等の理念のもと、勤労青少年に後期中等教育を受ける機会を保障すべく発足した。しかし1990年代以降は必ずしも経済的な余裕のなさや低学力によるものだけではなく、不登校経験者、全日制高校中退者、外国人生徒、非行経験者、発達障害など「多様なバックグラウンド」を持つ生徒が集まっていることは周知のこととなっており、近年では「より個性を尊重する」「多様なニーズに対応する」「再チャレンジを可能にする」ことを目指した統廃合や学科再編が行われている⁷⁾。

このような状況にあって、たとえば、通信制高等学校生徒の学習動機や、学習において抱えている問題について実態調査を行った研究⁸⁾があるが、定時制高校生を対象にした研究の余地は残されているように思われる。また、次期学習指導要領をふまえて、いわゆる進学校といわれる学校における授業の取り組み等に関しては研究、

報告が出されているが、基礎学力が不足している生徒が集まる教育困難校⁹⁾における授業の実践、研究もさらに進めていく必要があると思われる。本稿では、筆者が昼夜間単位制高校（定時制課程）において実践した社会科の授業を紹介するとともに、今後の課題を述べたい。

2. 昼夜間単位制（定時制課程）高校生にみられる学習動機

定時制課程の高校生の課題として、学習意欲が感じられない生徒や生活指導面で困難な生徒の存在が指摘されている。例えば学力面に関しては、分数がわからない、アルファベットが書けない、社会科では都道府県がわからない、地図をみて中国をアメリカと答えるなど、基礎的な学力が身につけていない生徒が多数在籍している。また、普段から新聞を読んだり、ニュースを見る習慣もないため、日本の周りや世界で起きていることに興味・関心を持たない生徒も多い。志願者の数は定員を超え、面接でしっかりした志望動機を語って入学するものの、三年間で卒業できる生徒は入学した生徒の半数にも満たず、年度途中で学校を去っていく生徒が後を絶たないのが現状である。

ところで、このような定時制課程の高校生たちは学習に対してはどのような動機をもっているのだろうか。このことについて、市川（2001）¹⁰⁾が提唱した「学習動機の二要因モデル」の中の6つの学習動機（充実志向、訓練志向、実用志向、関係志向、自尊志向、報酬志向）に関する36個の項目について、昼夜間単位制（定時制課程）の高校生にアンケートを試みた¹¹⁾。その結果について、平均値及び標準偏差（SD）を示したのが表1である。

表1に記した6つの学習動機を志向ごとに合計し、その平均を求めたところ、実用志向が一番高く、以下、訓練志向、充実志向、さらに報酬志向、関係志向と続き、自尊志向が一番低い。市川によれば、充実志向とは、「学習すること自体が楽しいし、やっていると充実感がある」。訓練志向は「知力を鍛えるため」。実用志向は「勉強というのは自分の将来の仕事や生活に生かせるからやる」。関係志向は「他者につられて勉強している」。自尊志向は「プライドや競争心から」、報酬志向は「外からの物質的な報酬を意識して」勉強するという学習の動機

(表1)

質 問 項 目	平均値(SD)
充実志向	
新しいことを知りたいという気持ちから	3.50 (1.01)
すぐに役に立たないにしても、勉強がわかること自体おもしろいから	2.97 (1.05)
何かができるようになっていくことは楽しいから	3.37 (1.02)
勉強しないと充実感がないから	2.16 (1.15)
わからないことは、そのまましておきたくないから	2.90 (1.16)
いろいろな知識を身につけた人になりたいから	3.10 (1.14)
訓練志向	
勉強することは頭の訓練になると思うから	3.32 (1.04)
合理的な考え方ができるようになるため	3.13 (0.89)
いろいろな面からものが考えられるように	3.09 (1.07)
勉強しないと、筋道だった考え方ができなくなるから	2.60 (1.10)
勉強しないと、頭のはたらきがおとろえてしまうから	3.00 (1.10)
学習のしかたを身につけるため	2.98 (1.11)
実用志向	
学んだことを、将来の仕事に生かしたいから	3.40 (1.01)
勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の役に立つと思うから	3.38 (1.15)
知識や技能を使う喜びを味わいたいから	3.09 (1.02)
勉強しないと、将来仕事の上で困るから	3.32 (1.13)
仕事で必要になってからあわてて勉強したのでは間に合わないから	3.43 (0.91)
勉強したことは、生活の場面で役に立つから	3.12 (1.14)
関係志向	
みんながやるから、なんとなく当たり前と思って	3.13 (1.16)
親や好きな先生に認めてもらいたいから	2.38 (1.20)
回りの人たちがよく勉強するので、それにつられて	2.26 (1.07)
みんながすることをやらないと、おかしいような気がして	2.45 (1.18)
勉強しないと、親や先生に悪いような気がして	2.36 (1.06)
友達といっしょに何かしてきたいから	2.30 (0.99)
自尊志向	
成績がいいと、他の人よりすぐれているような気持ちになれるから	2.53 (1.11)
ライバルに負けたくないから	1.94 (1.08)
勉強して良い学校を出たほうが、りっぱな人だと思われるから	2.81 (1.20)
勉強が人なみにできないのはくやしから	2.98 (1.22)
成績が良ければ、仲間から尊敬されると思うから	2.09 (0.98)
勉強が人なみにできないと、自信がなくなってしまいそうで	2.46 (1.09)
報酬志向	
成績がよければ、こづかいやほうびがもらえるから	1.61 (0.93)
学歴があれば、おとなになって経済的に良い生活ができるから	3.34 (1.16)
学歴がいいほうが、社会に出てからもとくなことが多いと思うから	3.20 (1.14)
勉強しないと親や先生にしかられるから	2.29 (1.18)
学歴がよくなると、おとなになっていい仕事先がないから	3.09 (1.16)
テストで成績がいいと、親や先生にほめてもらえるから	2.42 (1.16)

を示している。また、市川は充実、訓練、実用の三つの志向をまとめて、学習内容に参与している動機なので「内容関与的動機」とよび、関係、自尊、報酬の三つは、学習内容から離れた動機なので、「内容分離的動機」とよんでいる。

今回の調査によれば、昼夜間単位制（定時制課程）の高校生の特徴として、「内容分離的動機」よりは「内容関与的動機」が強いことがうかがえる。そして、「勉強というのは自分の将来の仕事や生活に生かせるからやる」。「やると頭が良くなるような課題でない」とやり甲斐を感じず、「学習すること自体が楽しく」、「やっていると充実感」があるような「楽しい内容」を求めていることがわかる。

このことは、各項目の平均値からみてもうかがえる。平均値の高いものを挙げると、「仕事で必要になってか

らあわてて勉強したのでは間に合わないから」(3.43)、「学んだことを、将来の仕事に生かしたいから」(3.40)、「勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の役に立つと思うから」(3.38)など、実用志向が高く、将来のために勉強しようという動機が高いことがわかる。また、報酬志向ではあるが、「学歴があれば、おとなになって経済的に良い生活ができるから」(3.34)や「学歴がよくなると、おとなになっていい仕事先がないから」(3.09)も将来のために勉強しようと考えていると解釈できる。また、充実志向の「新しいことを知りたいという気持ちから」(3.50)、「何かができるようになっていくことは楽しいから」(3.37)や、訓練志向の「勉強することは頭の訓練になると思うから」(3.32)といった項目が高いところから、学習に対する意欲が全くないのではなく、むしろ新しいことを知りたい、何かができるように

なりたいという動機を持っていることがうかがえる。こういったことから、実用志向、訓練志向、充実志向を念頭に置いた学習を授業内容のなかに取り入れていくことが生徒のやる気につながるように思われる。以下、筆者が実践した授業を紹介し、さらに生徒の学習意欲を高めるにはどうすればいいかといった課題を考えていきたい。

3. 「ジグソー法」を取り入れた授業の実践

次に示す¹²⁾のは、ありふれた、よく見られる授業の一例である。「一問一答をくり返し、正解探しをしていくタイプの授業」である。

教師が発問する。(①)
すぐに四～五人の手が上がる。(②)
教師は一人の子どもを指名する。(③)
指名された子どもが答える。(④)
『ちょっとちがうなあ。ほかに?』と教師は言う。(⑤)
別の子どもが答える。(⑥)
(以下、⑤—⑥をくり返す場合もある)
『そのとおりです』と言って正答を確認し、教師は授業を先に進める。(⑦)

筆者自身、もう何十年とこういう授業をくり返してきたように思われる。このような授業に対して、「第一に、少数の『できる子』『反応の速い子』を中心として授業が進んでしまい、多くの子どもは自分の意見をもたないまま他の子どもの意見を聞くことになってしまう。さらに問題なのは、それら少数の子どもにしたところで、教師の一方的な質問に対して答えているだけであって、学習の主人公になっていない」という指摘がある。ところで、このような授業は、教師の発問に対して手を上げる子どもがいるから授業を前に進めることができるが、そのような子どもがいなくなると、「目も当てられない授業」となってしまう。筆者が昼夜間単位制高校(定時制課程)に赴任した当初は、「目も当てられない授業」の連続であった。いくら発問をくり返しても、手が上がらないどころか、生徒たちは何の反応も示さないのである。答えが分からないのかもしれない、分かっているもみんなの前で発言することがためらわれたのかもしれない。しかし、まるで授業そのものに関心がないかのように押し黙ったままなのである。仕方なく、自分で答えを言って先に進めるしかなかった。この経験から授業に対してあれこれ悩み、目の前の生徒たちがどうすれば授業に参加するようになるか、試行錯誤をくり返してきた。そういう中で実践した授業の一つに「ジグソー法」があ

る。

次期学習指導要領では「アクティブ・ラーニング」の3つの視点(「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」)を明確化することにより、授業や学習の改善に向けた取り組みの活性化が求められている。その手法の1つとして「ジグソー法」が有効な指導方法として取り入れられている。「ジグソー法」とは、「ホームグループ」と「エキスパートグループ」という2種類のグループを作って行うグループ学習である。基本的に4人で1組のグループをつくり、第1段階は、ホームグループで集まる。第2段階で、エキスパートグループで集まり、理解を深める。そして、第3段階で、ホームグループに戻り互いに教え合うという方法である。その目的はホームグループでの資料の読解・理解であるが、皆が同じ資料を読むのではなく、各々のメンバーが異なる部分を読み、それをグループで総合することで各自の学習を進めていく¹³⁾。

筆者は、『日本史B』(東京書籍『新選日本史B』使用)の「4 鎌倉の仏教と文化」の単元で「ジグソー法」を取り入れた授業を行った。その際『小学館版 学習まんが日本の歴史(第7巻)』を教材として使用し、①法然、②親鸞、③道元、④日蓮の教えをそれぞれエキスパートグループでまとめさせ、その後、ホームグループに戻り、互いに①法然、②親鸞、③道元、④日蓮の教えを伝えさせた。さいごに、ホームグループの代表者をひとり指名し、①、②、③、④それぞれの教えを発表させた。授業当日は出席者が11名しかいなかったが、普段とは違った授業に、「まとめるのは難しかったが、発表するのはおもしろかった」、「発表とかあまりしたことがなかったので緊張した。でも、人の前で発表することはすごく大切なことだと思うので、今日の授業はよかった」といった感想を書いていた。

今回、『小学館版 学習まんが日本の歴史(第7巻)』を使用したのは、生徒の理解力を考慮してのことであった。学力の高い学校ではこういう漫画を教材に使うのは躊躇されることであろう。

ところで、進学校において、東大の入試問題をジグソー法によって解かせるという実践報告がある¹⁴⁾。それによると、600字で論述する問題を150字に分割して4人で考えさせるといった実践である。実は、筆者も『日本史B』の「撰閣政治のしくみ」のところで下記の東大の入試問題を使って授業を行ったことがある¹⁵⁾。

次の(ア)～(ウ)の文章は、10世紀から12世紀にかけての摂関の地位をめぐる逸話を集めたものである。これらの文章を読み、左記(エ)の略系図(省略)をもとにして、設問に答えよ。

(ア) 967年、冷泉天皇が即位すると、藤原実頼が関白となった。しかし、実頼は、故藤原師輔の子の中納言伊尹ら一部の人が昇進をねらって画策し、誰も自分には昇進人事について相談に来ないといって、自分が名前だけの関白にすぎないことを、その日記の中で歎いている。

(イ) 984年、花山天皇が即位し、懐仁親王(のちの一条天皇)が東宮となったとき、関白は藤原頼忠であったが、まもなく故伊尹の子の中納言義懐が国政の実権を握るようになった。かねがね摂関の地位をねらっていた藤原兼家は、自分が将来置かれるであろう立場を考えたとすえ、しばらくのあいだ、その野望を抑えることにしたという。

(ウ) 1107年、堀河天皇の没後、鳥羽天皇が即位したが、藤原公実、自分の家柄や、自分が大臣の一步手前の大納言であること、それに摂関には自分のような立場の者になるべき慣行があることを理由に、鳥羽天皇の摂政には自分をするよう、天皇の祖父の白河上皇に迫ったが、上皇はこれを聞き入れなかった。

設問

藤原実頼・頼忠が朝廷の人々から軽視された事情と、藤原公実の要求が白河上皇に聞き入れられなかった事情とを手がかりにしながら、(ア)・(イ)のころの政治と(ウ)のころの政治とでは、権力者はそれぞれ、どのような関係に頼って権力を維持していたかを考え、その相違を150字以内で述べよ。

(78年度第1問A・83年度第1問)

ここで少しこの問題を考えてみたい。上記の問題は、(ア)(イ)(ウ)それぞれ「どのような関係に頼って権力を維持していたか」を考えさせるものである。そして、この設問に加えて、「4人の娘を皇后に立て、栄華をほしいままにした藤原道長が、実は、実際に関白の座に就いたことはなく(摂政も晩年に1年間のみ)、就任を打診されて断ったことさえあった。その道長はなぜ関白にならなかったのか?そして、それにもかかわらず、『御堂関白』と呼ばれるほどの権力を握ったのはどうしてか?」という新たな「問い」を投げかけ、摂関政治における権力の拠り所は何であったのかを考えさせた。授業の始めに生徒は、「天皇が幼少時には摂政に、天皇が成人した後は関白となって権力を握った」という摂関政治に関する基本的なことは学習している。それゆえ

に、道長が権力を握るためには当然摂政、関白の地位に就いてしかるべきなのに就いていないのはなぜか、という基本的な知識に疑問を抱かせるような「問い」を発することによって考えを深めさせるねらいをもって、敢えてここでは東大の入試問題を使って授業を行った。結論をいえばここでは、摂政、関白という地位に就くよりも、「天皇家との外戚関係が重視された」という摂関政治の本質を理解させることで、歴史的な思考力を養うことができたのではないかと思われる。おそらく余程の進学校でない限り東大の入試問題など目にするものもないであろう。しかし、敢えてこういう難解な問題に挑戦することで学習に対する意欲を引き出すことができればという思いで行った実践である。この問題にあるように、基本的な「知識」に対して疑問を抱かせるような「問い」を発することによって、生徒たちの「興味・関心」を引き出す授業が展開できればと思う。

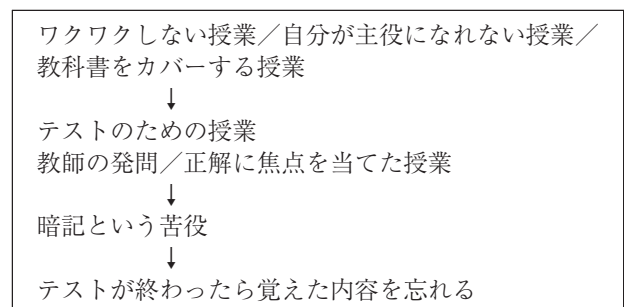
4. 「質問づくり」を取り入れた授業の実践

先述した「一問一答」をくり返す授業では、あらかじめ教師が「答え」を分かっていることに対して「問い」を発している。しかし、生徒がその「問い」に対して、何の反応も示さなければ「目も当てられない授業」になるだろうことは、先述した通りである。

ところで、アメリカの正問研究所の共同代表を務めるダン・ロスステインは、生徒がみずから質問をつくる「質問づくり」によって「生徒が輝く授業」になるという実践を提唱している。そこで、ロスステインによって書かれた『たった一つを変えるだけ クラスも教師も自立する「質問づくり」』¹⁶⁾を参考に、生徒が主体となる授業を考えてみたい。

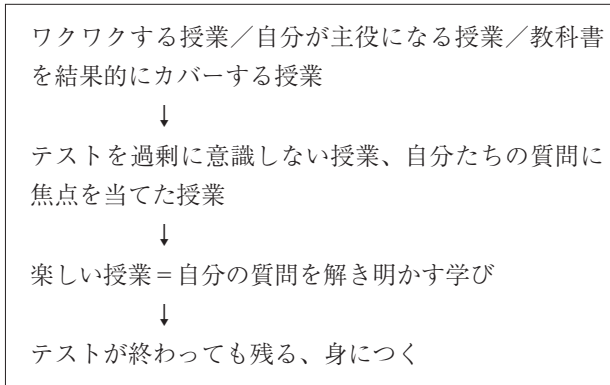
ロスステインによれば、「生徒たちが退屈する授業」とは図1に示したような授業である。

図1 生徒たちが退屈する授業



それに対して、次の図2のような授業が「生徒たちが輝く授業」である。

図2 生徒たちが輝く授業



著者ダン・ロスステインは、「生徒が輝く授業」にするためには、本のタイトルにあるように「Make Just One Change」、すなわち「たった一つを変えるだけ」と主張する。「これまでに行ってきた授業の九割は元のままでいい」、「これまでのように教師が発した質問に生徒たちが答えるのではなく、生徒たちが自らの質問をつくり出せるように導くこと」。「教師の問いかけによって生徒たちが考えることから、生徒たち自らが質問をつくることへの移行」が主体的な生徒をつくと述べている。

そして、この書では、次の1～4のルールに則って質問づくりが行われている。

- ・ルール1 「できるだけたくさん質問をする」
- ・ルール2 「質問について話し合ったり、評価したり、答えたりしない」
- ・ルール3 「質問は発言のとおり書き出す」
- ・ルール4 「意見や主張は疑問文に直す」

さらに、以下の手順で「質問づくり」が進められている。

- ①「質問の焦点」は教師によって考えられ、生徒たちがつくり出す質問の出発点となる
- ②単純な四つのルールが紹介される
- ③生徒たちが質問をつくり出す
- ④生徒たちが「閉じた質問」と「開いた質問」を書き換える
- ⑤生徒たちが優先順位の高い質問を選択する
- ⑥優先順位の高い質問を使って、教師と生徒が次にすることを計画する
- ⑦ここまでしたことを生徒たちが振り返る—学んだことは何か？どのようにして学んだか？学んだことをどのように応用できそうか？など

このダン・ロスステインの考えを参考に、筆者は、『現代社会』（第一学習社の教科書を使用）の「2 平和主義と安全保障」の単元で、「国際貢献とは」という「質問の焦点」を提示し、「質問づくり」をさせた。以下は生徒によって出された「質問」の一部である。

・国際貢献とは何ですか？ ・国際貢献はどうあるべきか？ ・海外派遣を含めた国際貢献のあり方がなぜ問題なのですか？ ・PKO 協力が制定され、自衛隊の海外派遣が決まったのはなぜですか？ ・PKO 協力が何ですか？ ・日本はいまどのような国際貢献をしているのですか？ ・なぜテロが起きるのですか？

授業の冒頭、わずか10分程度の時間を使って質問を作らせたのであるが、こちらの予想に反してかなり本質を突いた質問を出しているように思われる。そして、生徒によって出された質問を追究する形で授業を展開したところ、生徒たちが興味・関心をもって積極的に授業に参加していたのが印象的であった。

この単元に続いて、「5 政府の経済的役割と租税の意義」の単元でも「税」に関して質問を作らせた。その中で、たとえば、「税はなぜあるのか？」、「税がなければどういう社会になるのか？」、「税はいつからあるのか？」、「なぜ消費税を引き上げなければならないのか？」など、ここでも社会の仕組みに関する本質的な質問が出され、興味をもって授業に取り組んでいた。

さらにこの単元では、ウィギンズ (Wiggins, G.) とマクタイ (McTighe, J.) による「逆向き設計」論を参考に、「求められている結果 (目標)」を設定し、さらに「本質的な問い」、「永続的な理解」を練った上で、授業を行った¹⁷⁾。以下、参考として、この単元の最初の1、2時限目の「指導略案」(資料1)と「評価規準」(資料2)、および授業で使用したプリント(資料3)の一部を掲載しておく。

5. 今後の課題—TOK型授業を取り入れた実践—

前項で述べたように、「生徒たち自らが質問をつくる」という実践を行うことによって、筆者自身、生徒たちが考える習慣を身につけられるよう、そのことを意識して教えるようになったと感じている。

ところで、次期学習指導要領では、「各教科の特質に応じて育まれる見方や考え方を活用しながら、各教科の本質的な理解等に向けて探求することのできる力を育成する。」、「各教科の本質的な理解等に向かうことが重要であることから、問いについては教師が効果的に設定しながら、学習者自身が知識等を構造化できるような学習過程を設定する場合と、学習者が問いを見出すことができるような学習過程を設定する場合がある。」と記されており、「探求」する力の育成と、「学習者が問いを見出すことができるような学習過程の設定」が求められている。

このことに関して、筆者が受講したIB (International Baccalaureate 国際バカロレア) のコアカリキュラムの

一つである TOK (Theory of Knowledge 「知の理論」) が思い起こされる¹⁸⁾。

『TOK (「知の理論」) 指導の手引き』によると、TOK (「知の理論」) は、批判的 (クリティカル) に思考して、知るプロセスを探求する授業で、特定の知識体系を身につけるための授業ではない。TOK (「知の理論」) では、私たちが「知っている」と主張することを、いったいどのようにして知るのかを考察する。具体的には、「知識に関する主張 (knowledge claim)」を分析し、「知識に関する問い (knowledge question)」を探求するよう生徒に働きかけていく、とある。また、IB と日本の教育との関係については、「変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、我が国の学習指導要領では、知・徳・体のバランスのとれた力である『生きる力』の育成を理念とし、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力の育成を重視しています。この理念は、IBO が掲げる理念と方向性を同じくする面があり、IB 教育は、我が国が掲げる理念の実現に資する一つの方法となる可能性を持つと考えられます。」と述べられている¹⁹⁾。「課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、文章執筆能力、プレゼンテーション能力」等を培い、「物事を多様な観点から考察する訓練」を行っていく上で今後、IB の教育手法を取り入れていく必要があるように思われる。

そのヒントとして、筆者は受講した TOK (「知の理論」) のワークショップのなかで、「道徳的真理というもの存在するのか」という「知識に関する問い」を立て、8 つある「知識の領域」のうち、「倫理」の分野に焦点をあてて探求を試みた。その際、「実社会の状況」として「出生前検査の広がり」を取り上げた。実は、『現代社会』にも「3. 科学技術の発達と生命倫理」という単元があり、ワークショップで行った実践をヒントに TOK 型の授業を導入することも可能なように思われる。これはほんの一例であるが、生徒の現状を考えながら、定時制課程の生徒に対しても、IB の趣旨をふまえた教育を実践できないか、今後さらに模索していきたい。

6. さいごに

以上、昼夜間単位制高校 (定時制課程) において実践した授業の一端を紹介した。確かに昼夜間単位制高校 (定時制課程) には学力的に十分とはいえない生徒たちが集まっている状況は如何ともしがたい現実である。しかし、ここに集まってきている高校生たちは、「将来のために勉強したい」、さらに「新しいことを知りたい」、「何かができるようになりたい」という意識・意欲をもっ

て入学してきている生徒たちである。それゆえに、われわれ教師が、少しでも生徒たちに学ぶ楽しさを教え、もっと学びたいと意欲を持たせられるような授業を実践していくことが教師としての責務であるように思われる。次期学習指導要領にある、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」は、一部の進学校に通う生徒たちを念頭に置いたものでは決してない。むしろ、「学びから逃走」している生徒たちに身につけてやらなければいけない力であるように思われる。そのためにもより良い授業を実践できるように、試行錯誤をくり返しながら、今後ともさらなる研究を重ねていきたい。その方向性として、例えば IB の「歴史」²⁰⁾ が重視しているように、「単に史実を学習するだけでなく、歴史的な背景を踏まえて物事を考え、歴史的な研究のスキルを身につける」ことができるよう、各單元の中で考えていきたい。そして、IB の5つの主要スキル (思考スキル、コミュニケーションスキル、社会性スキル、リサーチスキル、自己管理スキル) が身につけられるように授業をデザインし、「探求」型の授業へと発展させていきたい。

注)

- 1) 文部科学省「平成28年度学校基本調査」
- 2) 文部科学省「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」
青砥恭は、その著『ドキュメント高校中退—いま、貧困がうまれる場所』(2009ちくま新書)で中途退学と貧困との関連を示すとともに、底辺校 (入学試験の点数が最も低いグループ) に集中する高等学校中途退学者の実態を述べている。
- 3) 文部科学省「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によれば、平成27年度の全日制普通科の中途退学者数は19558人、中途退学率0.8%、全日制専門学科の中途退学者数は7990人、中途退学率1.1%、全日制総合学科の中途退学者数は2084人、中途退学率1.3%となっている。
- 4) 『中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会』(平成26年6月)では、「中途退学の理由として、もともと高校生活に興味がなかったり、人間関係がうまく保てなかったりするなど、学校生活・学業不適應とする者の割合が高い」としている。また、内閣府が平成22年度に高等学校中途退学者の生活状況や意識、必要としている支援を把握するため、文部科学省の協力を得て行った全国調査では、中途退学した理由として、「欠席や欠時がたまって進級できそうもなかったから」(54.9%)、「校則など校風があわなかったから」(52.0%)、「勉強がわからなかったから」(48.6%)、「人間関係がうまくいかなかったから」(46.3%)などが上位に上がっている。なお、大阪市立の定時制高校の退学率は、平成26年度22.3%となっている。また、退学理由は「学習意欲の減退」(33.6%)が圧倒的に多く、ついで「出席状況に起因するもの」(17.4%)となっている (大阪市立高等学

- 校人権教育研究会「第30回大阪市立高等学校人権教育研究集会討議資料」(2016)。
- 5) 文部科学省「平成28年度学校基本調査」
 - 6) 片岡栄美「学校世界とステイグマ－定時制高校における社会的サポートと学校世界への意味付与－」(関東学院大学人文科学研究報17号1993)
 - 7) 近藤伸・横井敏郎「都市部定時制高校の実態と存立の可能性－札幌市内高校定時制課程の調査から－」(公教育システム研究第8号2009)、柿内真紀・太谷直史・太田美幸「現代における定時制高校の役割」(鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要第6号2009)
 - 8) 小林寛子・平部正樹・藤後悦子・藤本昌樹「通信制高等学校生徒の家庭での学習を妨げる要因の検討－学習動機・学習方略・自己評価の問題に着目して－」(東京未来大学モチベーション研究所報告書2016)
 - 9) 朝比奈なを『見捨てられた高校生たち知られざる「教育困難校」の現実』(学事出版、2011)、工藤文三「今後の後期中等教育の在り方に関する研究(最終報告書)」(国立教育政策研究所2008) 参照
 - 10) 市川伸一『学ぶ意欲の心理学』(PHP 研究所、2015) 以下、市川に関してはこの書を参照
 - 11) 筆者は、2016年8月にアンケートを実施。74名(男子33名、女子41名)から回答を得た。
 - 12) 授業を考える教育心理学者の会著『いじめられた知識からのメッセージ ホントは知識が「興味・関心・意欲」を生み出す』(北大路書房1999) より
 - 13) 友野清文「ジグソー法の背景と思想－学校文化の変容のために－」(学苑 総合教育センター・国際学科特集 No. 895、2015)、永松靖典「歴史的思考力の育成を目指した一実践－知識構成型ジグソー法を用いて鎌倉幕府の滅亡を考えさせる－」(山川出版社『歴史と地理第690号』2015) 参照
 - 14) 青木美智留「東大の入試問題を利用したジグソー法」(平成28年度全国歴史教育研究協議会第57回研究大会 所収)
 - 15) 相澤理『歴史が面白くなる東大のディープな日本史』(中経出版2013) より
 - 16) ダン・ロスステイン・ルース・サンタナ、吉田新一郎訳著『たった一つを変えるだけ－クラスも教師も自立する「質問づくり」－』(新評社、2016)
 - 17) 西岡加名恵『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』(明治図書、2016)、山藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか－中学校社会科のカリキュラムと授業づくり－』(日本標準、2016) 参照。なお、筆者は、『現代社会』の授業で「トランプ大統領は日本および世界にどんな影響を与えるだろうか」、『日本史B』の授業で「室町文化の文化遺産、遺跡等を案内してください。その際、その遺産・遺跡に関する説明およびそこへ行くまでのルートをあわせて調べなさい」といったパフォーマンス課題を生徒に課した(インターネットで調べたことをそのまま書き写しても良いことにした)。ほとんどの生徒が「普段、家庭での学習時間はゼロ」と答えており、家庭学習の習慣のない生徒たちであるが、こういった課題を出すことによって、少しでも家庭で学習するきっかけになり、学習意欲に結びつけばと思う。また、朝日新聞の「天声人語」を写させ、感想を書くという課題を課したところ、徐々にではあるが文章を書く力がついてきたように思われる。基礎学力をつけるために、地道な継続を続けていきたい。
 - 18) 筆者は、平成28年12月16日から3日間、玉川大学で開講された TOK (「知の理論」) Category 1 のワークショップを受講、その際の資料や『「知の理論」(TOK) 指導の手引き』(2015) を参考にした。
 - 19) 国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける「TOK」に関する調査研究協力者会議「国際バカロレア・ディプロマプログラム Theory of Knowledge (TOK) について」(2012) より
 - 20) IB ディプロマプログラム (DP) 『「歴史」指導の手引き 2017年第1回試験』及び『「歴史」教師用参考資料2017年第1回試験』 参照

【追記】

石川一郎氏により、『2020年の大学入試問題』(講談社現代新書、2016)、『2020年からの教師問題』(ベスト新書、2017) が出版されている。3年後の大学入試改革に向けて、現場の教師の早急な意識の変革が求められているように思われる。

(あさい のぶお・大阪市立中央高等学校教諭)

◆資料1 (指導略案)

○単元「5 政府の経済的役割と租税の意義—財政のしくみ・租税の意義と課題—」		(第一学習社 P160・P162)
目標 (Goal) 現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深め、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について理解する。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について理解する。		
本質的な問い (本時) ・財政による政府の役割とは何か？ ・日本の財政には、どのような課題があるか？		
永続的な理解 (本時) 市場経済の中において、財政による政府の役割として、国民生活の向上と福祉の充実のため、民間部門では十分には供給することの難しい財やサービスを提供するという役割がある。さらに所得再分配や経済の安定化を図る役割がある。		

主な学習内容と評価の流れ (本時)

主な学習内容の流れ		評価			
		関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解
1・2 限目	●「導入」として、「税」に関する問い立てを行う【個人】	○			
	●日米の医療費の違いから、政府が果たしている役割を考え、税に関する関心を持ち、税がどういったことに使われているかを考える【一斉】 問. アメリカで、救急車を呼んだ場合、歯科医にかかった場合、盲腸の手術をした場合、いくらかかるかを日本と比較しながら考える【ペア】	○			○
	●国や地方公共団体が行う経済活動を財政というが、日本の国は一年間でどれくらい使うか、また、どういったことに使われるかを、2016年度の一般会計予算のグラフを読み取り、社会保障費が全体の3分の1を占めていることに気づかせる【個人およびペア】	○		○	○
	●社会保障費の内訳を考え、なぜ、社会保障費の負担が増加し続けているのかを考え、日本の財政の問題、課題を考える【個人およびペア】	○	○		○
	●2016年度の一般会計予算(歳入)のグラフから、税収が約60%を占めるが、約35%は国債という名の国民からの借金であることを読み取らせる【個人およびペア】	○		○	○
	●国債の残高が1000兆円を越えていること、なぜ、残高が膨大になったかを考える。また、その残高を減らしていくことが日本の財政の課題であることに気づかせ、そのためにどうすればいいかを考える【一斉】	○	○		○
	●税の種類として、「国税」と「地方税」があること、さらに「直接税」と「間接税」があること、そしてそれぞれ具体的にどういった税があるか、その種類を理解する【一斉】 問. 「たばこ1箱あたり」「ビール1缶あたり」、一体いくら税が課せられているか、税に関する関心を持たせるために問いかける【ペア】	○			○
●授業の振り返りを行い、本時間で学んだことを確認する【個人】					

◆資料2 (評価規準)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
規準A	政府の経済的役割について、関心を高め、それを意欲的に追究し、財政について自分の問題として考えようとしている	政府の経済的役割に関して、課題を見だし、個人と企業の社会的責任などについて多面的・多角的に考察し、経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している	政府の経済的役割に関して、一般会計予算や景気変動等のグラフや諸資料を収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、個人や企業の社会的責任や経済活動の在り方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している	身近な事例を参考に、政府の経済的役割に関して、財政のしくみ、租税の種類とその意義、財政政策の機能について理解するとともにその知識を身に付けている
規準B	政府の経済的役割について、関心を持ち、それを追究し、財政について考えようとしている	政府の経済的役割に関して、課題を見だし、個人と企業の社会的責任などについて考察し、経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ判断している	政府の経済的役割に関して、一般会計予算や景気変動等のグラフや諸資料を収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択するとともに、個人や企業の社会的責任や経済活動の在り方を追究し考察した過程や結果を適切に表現している	身近な事例を参考に、政府の経済的役割に関して、財政のしくみ、租税の種類とその意義、財政政策の機能について理解している
規準C	政府の経済的役割について、関心もなく、自分の問題として考えようとしていない	政府の経済的役割に関して、課題を見出すことなく、個人と企業の社会的責任などについて考察せず、経済活動の在り方について判断していない	政府の経済的役割に関して、諸資料を収集し、学習に役立つ情報を選択するとともに、個人や企業の社会的責任や経済活動の在り方を考察した過程や結果を表現している	政府の経済的役割に関して、財政のしくみ、租税の種類とその意義、財政政策の機能について理解している

◆資料3 (授業プリント)

2019年(平成31年)10月から消費税の引き上げ(現行の8%から10%)が予定されているって知ってましたか?元々は去年(2015年)の10月から10%になる予定でしたが、増税によって景気がさらに悪化するのを心配して延期になりました。その際に、「軽減税率」のことが話題になっていましたが(例えば、ハンバーガーを買ってお店で食べた場合と、家に持って帰って食べた場合とでは税率が変わるなど)、2019年ではどうなるかわかりません。さて、今回の授業では、「税」や「社会保障」について考えていきたいと思います。はじめに、以下の質問に答えてください。

問1. 消費税が上がることにあなたは「賛成」ですか、「反対」ですか。

賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえば反対 反対

問2. 問1で答えた理由を書いてください。

問3. 税には「消費税」のほかにどんな税がありますか。知っている限り、答えなさい。

問4. アメリカのカリフォルニアで、お腹が痛くて動けなくなったため救急車を呼ぼうと思ったところ、お金がかかると言われました。いくらかかるとおもいますか。

① 1500円 ② 15000円 ③ 50000円

問5. アメリカで、歯が痛くなって歯医者に行ったところ、左上下の親知らずが虫歯と判明、治療するより抜いたほうがよいというので、抜いてもらうことになった。虫歯2本でいくらかかるとおもいますか。

① 100ドル(約1万2千円) ② 500ドル(約6万1千円) ③ 1200ドル(約14万6千円)

問6. アメリカのニューヨークで、盲腸の手術をして1日入院したら、日本円でいくらかかるとおもいますか。

① 約30万円 ② 約250万円 ③ 約450万円

問7. 東京で、急にお腹が痛くなったので、救急車を呼びました。いくらかかるとおもいますか。

① 10000円 ② 5000円 ③ 無料

問8. アメリカと日本の医療にかかる費用の違いについて、その理由はなぜだと思えますか。

問9. 公立の小学校に通っている小学生1人当たり、公費負担教育費はいくらくらいと思えますか。

① 約35万円 ② 約85万円 ③ 約135万円

問10. 公立の高校に通っている高校生1人当たり、公費負担教育費はいくらくらいと思えますか。

① 約100万円 ② 約150万円 ③ 約300万円

1年間に得た国の収入を歳入といい、支出を歳出といいます。また、国や地方公共団体が行う経済活動を財政といいます。

ところで、日本の国の予算は一年間でいったいどれくらいと思えますか?

問11. 下のグラフは、平成28年(2016年)度の日本の一般会計を示したものです。一般会計予算の総額はいくらですか。

予算総額 _____ 円

問12. 下のグラフについて、歳出の中で一番多い費目は何ですか。また、その金額と全体に占める割合(%)を答えなさい。

_____ 費 _____ 円 _____ %

